

Library Information

日	月	火	水	木	金	土
					7/1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24 31	25	26	27	28	29	30

●・・・休館日

*** おはなし会の案内 ***

曾於市立図書館本館（末吉）

■ 「**ちゃいはな**」・・・絵本の読み聞かせや手あそび歌
 日 時 7月2日・9日・16日・23日・30日（土）
 午後2時より
 場 所 曾於市立図書館本館（末吉）

財部分館

■ 「**祝子**」・・・むかし話やわらべ歌を楽しむ
 日 時 7月3日（日）午前11時より
 場 所 財部中央公民館

※図書館まつりのお知らせ

■ 期日 7月23日(土) 14時～、24日(日) 14時～、30日(土) 13時～16時、
 31日(日) 19時～20時、8月7日(土) 18時～19時
 ■ 場所 末吉本館、大隅・財部分館
 ■ 内容 シネマ・シアター、夏休み子ども工作教室
 夜の音楽会・二胡の調べ、屋外（七夕影絵劇場）
 （詳しい事は各図書館までお問い合わせ下さい。）

新刊情報

◆ 一般図書

『鼠、影を断つ』・・・赤川 次郎
 『恋いしぐれ』・・・葉室 麟
 『生まれた命にありがとう』・・・野田 聖子
 『三十光年の星たち』（上）（下）・・・宮本 輝
 『天狗の剣（幕末京都守護職始末）』・・・藤本 ひとみ
 『感染遊戯』・・・誉田 哲也
 『跪き、道の声を聞け』・・・ヒキタ クニオ
 『ちょちょら』・・・畠 中恵

◆ 児童図書

『キリエル』・・・ジェンキンス
 『リターン』・・・山口 理
 『てんせいくん』・・・八束 澄子
 『赤い屋根』・・・鳥居 真知子
 『菜の子先生の校外パトロール～学校ふしぎ案内番外編PARTIAL～』・・・富安 陽子
 『魔使いの犠牲』・・・ジョセフ・ディレイニー
 『<天才フレディ>と幽霊の旅』・・・シド・フライシュマン
 『ミルクマンという名の馬』・・・ヒルケ・ローゼンホーム

◆ 絵本

『しっぽしっぽしっぽ』・・・木曾 秀夫
 『たこきちとおぼうさん』・・・江藤 ノリコ
 『ちびころおにぎり なかみはなあに』・・・おおい じゅんこ
 『パパ・カレー』・・・武田 美穂
 『はらべこブブのおべんとう』・・・白土 あつこ
 『ちまちゃんとこくま』・・・もりか
 『たこやきようちえん～こうさくだいすき～』・・・さいとう のぶ

おひぎでよんで

おかさんのおひぎのうえでおはなしを
 きこう！

ゆったり、お子さんと一緒
 におはなしの時間を楽しみま
 せんか。

日時：7月27日（水）
 午前11時～

場所：曾於市立図書館本館
 2階（夢学習館）



図書館だより

曾於市立図書館本館

☎ 0986-28-8051

曾於市立図書館大隅分館

☎ 099-482-2410

曾於市立図書館財部分館

☎ 0986-72-1111

（内線 3440）

今月の一冊



朗朗介護

米沢 富美子

93歳の母を見るのは、癌を煩っている72歳の著者とその妹。老老介護で、遠距離介護。介護は介護者の生活を破壊することで、「介護地獄」とも言われる。作者は本の中で、労務介護や、牢牢介護など様々な言葉で介護を語っている。介護が必要な高齢者が生きてきた長さだけの荘厳な歴史と、語り尽くせない深い思いをしっかりと受け止め、介護という壮絶な日々を、介護する側、される側ともに、「朗らかに」をモットーに、必死に生きている。筆遣いは軽快であるが、テーマはとて深刻で、多くの課題を突きつけられる。

うたごよみ

曾於文藝

「題字」
末吉文化協会会員
瀬戸口 淳 氏

俳句

千草俳句会

つれだちて一と日の旅や五月晴
齊藤 忍

風立ちてくるくる廻る矢車かな
高橋 てる女

夏菊の香りほのかに匂いけり
浜田 郁子

吾が住居見ゆるかぎりの若葉か
な

川崎 綾子

夏服の学生軽ろく会釈する

岩重 みどり

目に見えぬ程の影あり水馬
中島 玉水

短歌

末吉短歌会

容赦なく摘果されたる命継ぎ庭
のさくらんぼ熟れてゆかむか
大森 澄子

かつこよく歩こうなんて夢の夢
こころもとなし老いへの準備
小野 清子

「沈黙の春」となりたり原発の
事故の町には人影絶えて
宝蔵 弘二

大隅短歌会

帰省せし息の手を借りて苦瓜の
棚を作りぬ夢を架けつつ
米沢 正敬

咲きほこる桃の小枝をひと抱え
器に盛りて節句を寿ぐ
本田 澄江

七分搗きに精米したる新米の胚芽
研ぐたび指よりこぼる
西山 美代子

財部短歌会

五人の孫希望なす道をまっしぐ
ら未見届くるを頼りに生きなむ
瀬戸口 芳子

競ひしてつくしんぼうの背比べ
ぐんと伸びよとそと手を添ふ
祝迫 道雄

春めいて一人暮らしの古い人は
シヨツピングカー押ししてリハビ
リ
児玉 次雄

庭先に咲き極まれる雪柳茫茫と
してなだるる覚ゆ
富山 治雄

やや固しカメラの前の新入児父
母の与へし名前を胸に
川俣 若

麗らかな花かげに集ふ古い仲間
弁当かこみくり言はずむ
井上 澄子

茶の間にて強威の津波に慄きぬ
瞬時に呑まるる海浴ひの町
杉村 リカ

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

肥ゆい女房 素あやつぱい
余ゆ食つ

桐野 奈世

肉か余つ 血圧ちや高けち
医者か吐つ

田代 勝泉

国会いも 効の無議垂れが
余い放題

森山 厚香

大隅薩摩狂句会

今洗るた車め歯痒いか灰が積つ

山田 竜生

灰にすれば塵も減つとに焼かな
らじ

太良木 五徳

殺処分恨んぬ山ん灰で苛つ

神宮司 素水